

# CENTENARY

2010.6.10

第 52 号

兵庫県立加古川西高等学校



文武両道による人格の形成

# 祝

## ボート部 (県総体)

### 男女 AVEC 優勝

5月29日(土)から2日間、県総体ボート競技大会が円山川城崎漕艇場にて開催されました。

本校ボート部は、男子は舵手付きクオドルプル(4人漕ぎ)2艇、シングルスカル(1人漕ぎ)2艇。女子はクオドルプル3艇、シングルスカル1艇、のエントリーで臨みました。すべての競漕距離は千メートルで、タイムではなく着順を競う形で行われます。



全国大会出場が決まった2つのクルー

ボート競技大会においては、各1位だけがインターハイ(今年は沖縄で開催)への切符を手にすることができません。

### 女子

シングルスカル(灘・3年)第3位入賞。クオドルプルCクルーが第3位(青木、樋之津・3年、岸田、舛形、吉井・2年)と健闘しました。

クオドルプルAクルー(濱崎・八田・田中・廣岡・高橋、いずれも3年)は前評判どおり洲本Aとの一騎打ちの展開でレースは進み、向かい風の中10秒近くの大差をつけての快勝となりました。これで女子クオドルプルは昨年度に続きV2を達成し、日々の練習での合い言葉「一緒に沖縄へ行こう」を現実のものとなりました。

### 男子

午後の男子決勝レースは強風のため2時間の中断の後再開されました。



### 荒波の中の激戦

リギングは(レース準備と調整)勝利のための重要なファクター

決勝に進むことができたのは、男子クオドルプルAクルー(有光、高松、稲岡・3年、村山、鷺尾・2年)。

レースができる限界の波・風の中でのレースとなりました。本校ボート部には男子クオドルプルでインターハイへ出場した経験がありません。「シングル、ダブルではなくクオドルプルで勝りたい」それが男子の合い言葉でした。

レースは観戦している誰もが引き込まれるような白熱した戦いになりました。中盤までは柳学園、洲本、相生産業に本校がわずかに遅れる展開に。しかし後半、

最後まで集中力を欠くことなく巻き返し、わずか0秒85差で第1位を勝ち取りました。

### 熱闘を制して全国へ

加古西ボート部の伝統は、その漕ぎ姿が美しいという点にあります。無駄のない漕ぎ方をしているから美しいフォームになるのです。今回の男子の勝因は、その伝統に則り、自らの力を信じて最後まで乱れず漕ぎ通した点にあるといえます。

男女そろってのインターハイ出場です。次の合い言葉は「沖縄で RowOut(燃え尽きろー)」でしょうか。

### 書道部

### 教育長室を飾る

本校書道部の熱田智美さん(3年)の作品が、このたび県教育長室に掲げられることになりました。

熱田さんの作品は、昨年11月の県総文で一席という優秀な成績でした。



熱田さんと顧問の山口教諭(左)、大西教育長

**ちょっと一言** 県総体での活躍が多く見られました。今回のボート舵手つきクオドルプルのアベック優勝のほか、全国に届かないまでも県上位に多くの種目が進出しました。全種目はまだ終了していませんが、現段階では総合で男子20位、女子10位という好成績です。

本校では、部活動全て、練習を終了して校門を出るのは7時までと定めています。限られた時間で効率よく成果を上げる、これは部活動に限らず高校生活全てに大事なことです。そして、誰にも目指して欲しい、文武両道、豊かな高校生活への大原則です。